

## ○町長あいさつ

### 【平井町長】

寒い中たくさんの方にお越しいただきまして、本当にありがとうございます。今まさに地方創生として、今後5年間の総合戦略を年度末に策定するという状況にあります。総合戦略の案がほぼ固まってきており、このタウンミーティングでは総合戦略案についてみなさまからご意見をいただき、できるだけ反映させていただく機会にしたいと思います。

まず挨拶ということですが、せっかくの機会ですので、今の王寺町が置かれている状況も含めて話をさせていただければと思います。

平素は王寺町の町政や行事等々にご理解とご協力をいただきまして、御礼を申し上げます。大正15年2月11日に王寺町制が施行され、今年は町制施行90周年となります。県内では5番目ということで、かなり早い町制施行であったと承知しております。これはやはり明治23年に王寺駅ができて、大阪と奈良が鉄道でつながったという背景があります。そういった交通の要所に王寺駅あるいは王寺町はあります。そして、そこから市街化が進んでいったということで王寺町はかなり早くから町制を施行した経緯があるかと思います。詳しくは、「やさしく読める王寺町の歴史」をぜひご覧いただきたいと思います。本当に紆余曲折もあった90年だと思います。我々はもちろん存じないわけですが、昭和7年に亀の瀬で地すべりがあり、大和川がせき止められたことで王寺駅まで水が流れたという歴史もあります。また、そのちょうど50年後の昭和57年に大水害があり、これも王寺駅周辺が床下や床上まで浸かりました。しかし昭和57年の水害で人的被害がなかったことは、結果として幸運だったと思います。その他にも、過去に先輩方が色んな形で努力され、今の王寺町の繁栄があると思っております。また、次の100周年に向けて、この10年をどのようにまちづくりをしていくのか、あるいは住民のみなさまの暮らしづくりをしていくのか考える必要があります。そのひとつの基本的な方向を示させていただいているのが、この総合戦略だと思っております。本日初めてみなさまにご覧いただくわけですが、ぜひご意見をお寄せいただき、できるだけ反映させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

今回の総合戦略は、国全体の人口減少対策がメインとなっているのはご案内のとおりです。国全体で1億人という単位は死守するという目的がございます。人口減少については王寺町もご多分に漏れませんが、現在の人口だけの話をまずさせていただくと、現在は住民基本台帳人口で23,400人くらいだと承知しています。そして王寺町の人口が一番多かったのは、今からおよそ20年前の平成7年で、阪神淡路大震災の年です。その時に24,600人程度となり、その後20年間で約1,200人減ったというのが実態です。みなさまも

色々とお聞きになっていると思いますが、増田元総務大臣の研究会での報告を見ると、センセーショナルな内容となっており、消滅する可能性のある都市が日本全国の市町村の半分ぐらいあるということで、これが人口減少問題に火をつけたと思います。その報告の中身を抜粋すると、子どもを出産される、特に20代、30代の女性の人口が今後25年程度でどのように推移していくかということが挙げられています。当然、子どもを出産される女性は20代、30代の方が主だという前提であります。王寺町の場合、その年代の女性の減少率が49%とされています。人口構成は当然ながら社会移動もありますが、人口推計は概ね当たるものというのが、日本の統計上の定説です。それに従うと今後25年間で、今おられる方々がそのまま年を取られて、20代、30代の子どもを産んでいただける可能性が高い女性の比率は今から比較すると49%減となっています。50%を超えると、いわゆる消滅可能性都市という定義をなされます。これは事実であります。上牧町、河合町は消滅可能性都市と分類されているようです。しかし王寺町も49%とほとんど変わらない状況となっており、そういった状況にあることを十分留意しておかなければならないと思います。また、合計特殊出生率について、表があるのであとで見ていただければと思いますが、直近である平成26年の王寺町の合計特殊出生率は1.26（見込み）となっています。基本的には、2.07人産んでいただかないと人口が維持できないとされています。それが直近の数字では、1.26となっており、0.8くらいの乖離があります。奈良県の平均が1.27であり、それよりも0.01低くなっています。また国全体の平均が1.42であり、国と比較すると平成26年はかなり低くなっております。しかし、実はもう1年さかのぼった平成25年は、1.62と結構高い値でした。それは王寺町の特異性で、南元町へたくさんの方に入っていたいて、平成25年は1.62まで高くなったと考えられます。しかしここ6年間くらいをみると、国・県の平均を上回っていたのは平成25年だけで、それ以外は平均よりも低くなっているのが実態です。将来的には、今おられる女性の方が都市部へと離れることで、25年後に20代、30代の方が半分近く減ってしまうという課題がひとつ挙げられます。それから現状も出生率が1.26人しかないという課題もあります。今後、どのような方向を基本に施策を進めていくのかを考える必要があります。色々な施策全てがもちろん大事ではありますが、その中で優先順位をつけ、消滅可能性都市と言われたいために、できるだけ少子化対策や子育て支援、出生率をあげる施策に全力をあげなければなりません。これが喫緊の課題であることは、データからもご理解いただけていると思っております。

もう一つ王寺町は、人口が社会増となっており、転入されてこられる方が多いところです。一方で若い方は東京などに仕事で出られることもあります。

出ていく代わりに入ってこられる人もいますので、王寺町は社会増減の影響は小さいと言えます。つまり、人口を増やすには、出生率を上げることで自然増減率を上げることが有効であると考えられます。たくさん子どもを産んでいただけるよう頑張れば頑張るほど、人口増が期待できるということです。中南和地域の方は社会減が圧倒的に大きく、出生率を上げる努力をしてもなかなか追いつかないわけです。しかし、王寺町は出生率を上げる施策に取り組むほど、その効果が人口増加に反映できると考えています。

また、王寺町人口ビジョンでは人口が2060年に2万人を割らないことを目指しています。他の地域の人口ビジョンでは、人口を倍に増やすという計画もありますが、王寺町は努力目標として、なんとか2万人は維持したいという姿勢です。

他に大事なことは、色々な施策を行う上で、どのようにして税収を確保するのかということです。当たり前ですが、税収がないと施策が行えません。この点についてもしっかりと考えて、施策を行っていかなければならないと思っています。王寺町は7平方キロメートルしかなく、企業誘致には向かないところです。ではどこに税収を求めるのが良いのでしょうか。今までは高い所得層の方に、住民税をきちんと納めていただいております、安定した税収が見込めました。しかし、サラリーマンの方も今後は退職期に入ります。比較的高い住民税を納めていただいていた方が順次高齢化され、今度は行政サービスの受け手になってくるわけです。税を納めていた方が、税を使われる立場になるというのは、おかしい表現ではありますが、そういった構造になっていきます。そこで観光産業に着目して、できるだけ観光産業を振興することで、税収と雇用を確保したいと考えています。そういった基本的な姿勢に立っていることをご認識いただければ幸いです。

最後に、ちょうど今は来年度の予算編成の時期です。先ほどから申し上げているのは5年間の総合戦略です。5年間で全てが達成できるかはわかりませんが、ある程度中期的な目標として本日は説明させていただきます。本日は議員の皆様もたくさん来られています。全て確定としてはお話できませんが、当然議会のご承認をいただかなければ予算の執行はできません。現在プランとして考えていることを前提に、お話させていただきますと、子ども・子育て施策をもう少し充実していきたいと思っております。保育所や幼稚園は2人目以降については保育料を昨年から無料化させていただいております。これは、県の中では初めてに近い施策だと思っています。保護者の経済的な負担をできるだけ軽減しようということで、昨年度から実施しており、今後も継続していきます。公立の幼稚園については、パート等で仕事をされている方も多いので、保育の延長を2年前から行っています。今年はもう少し実態も踏まえて、例えば夏休

みなどの長期の延長保育もできないかということを検討しています。また、不妊治療の対象を1人目からさらに拡大することや、核家族が多い中で母親の状況によっては、産前産後の対応が難しく、子育てが大変な方もおられるので、産前産後のヘルパー制度を設けたいということも課題として挙がっています。また、小児科の先生の確保が一番の難点となっています。やはり病児保育や休日あるいは平日夜間の小児科の救急体制の確立をしたいと思っていますが、小児科の先生の確保が難しいという実態があります。県の西和医療センターにも継続して要望していますが、西和医療センター自体も院内保育は行われておりますが、病児保育はまだ行われていません。そのような実態があり、先に市町村を行ってもらうのは難しいと思われませんが、知事へは色んな場面で要望させていただいているところです。なんとか、一刻も早く休日や平日夜間の小児科の救急体制を整えたいという思いです。皆さまからもお声を上げていただければ、県に対して要望するにあたり背中を押していただける要素にもなりますので、よろしくお願い申し上げます。

また高齢者施策については、皆さまにも外出支援など色々ご関心を持っていただいております。外出支援の制度として、まずイコカカードにつきましては利便性が高く、7割近くの方が選ばれています。このままいけば来年4月から、消費税もさらに上がります。低所得高齢者の方の生活対策の課題もあります。イコカカードは当初、制度上の問題もあり、本人確認が100%できないため、廃止すると言ってきました。だからといって、これを廃止することはご理解いただけないだろうと思います。そこで、できることをしようとJR西日本と継続して協議をしてきました。個人のマナーにもよりますが、できる限り本人確認をきちんとしていただけるように、「雪丸のイラストを入れる」などして、一目で王寺町のイコカカードであるとわかるものをつくりたいと考えています。一つ心のハードルを上げることで、5,000円で継続させていただきたいということは、最近議会にも説明させていただきました。またタクシー優待券については、400円×20枚の計8,000円分を、1ヶ月に2枚分くらいということで24枚、計9,600円に増額させていただきたいと思っております。坂道が多いところもありますので、ドアtoドアで使っていただければと思います。あるいは友人と2人や3人で使っていただければ2倍3倍使っていただけます。ぜひ外出にタクシーを使っていただけることを期待して、8,000円から9,600円に引き上げさせていただいてはどうかと考えています。また、今は単年度ですがタクシー協会のご理解をいただき、有効期間2年で1年分は次の年に繰り越しができるような形で今後運用したいと思っております。

特別養護老人ホームについては、現在募集しており、5団体から手を挙げて

いただいています。王寺町独自の審査基準でもって、審査委員会で審査中です。なんとか平成２８年度中に県に申請、許可を受け、平成２９年度中には王寺町の特別養護老人ホームを町内に設置したいと思っています。現在西和圏域内で特別養護老人ホーム又は介護老人保健施設がないのは、王寺町だけで、この課題を解消したいと思っています。ただし王寺町の特別養護老人ホームは、在宅医療や在宅介護あるいは訪問のリハビリなど在宅支援をできるだけ取り入れてくださいといったことを条件の一つに入れて審査をしています。平成２８年度中、うまくいけば秋くらいに県の許可がおりるのではないかと思います。

その他の施策についても鋭意検討しているところでありますが、子育て施策と高齢者施策の主な施策についてお話をさせていただきました。５年間の総合戦略について、この後の説明と多少重なるところもあると思いますが、お聞きいただき、ご意見をいただくことを要望させていただきまして、私のあいさつと冒頭の説明とさせていただきます。ありがとうございました。